



上田さんの農園では、オランダの種苗メーカーの8つの品種を栽培。赤色が「ナガノ」と「ファルコ」、黄色が「ヘルシンキ」と「ジョリット」、オレンジ色が「ブギー」と「ジャックミラー」、ホルンという角笛のような形をしたものが2種類。オリンピックの開催地やオートバイレーサーの名前が付けられていて面白い。色により味に特徴がある。

安土信長葱 × パプリカ

安土にゆかりの深い織田信長公にちなんで名づけられた「安土信長葱」は、太くて柔らかく甘みが強いのが特徴。ネギの太さや長さ、白い部分の長さには独自の基準が設けられている。糖度は14度ほどで、一般的なスイカよりも甘い。

Interview 1

「あかねさす」太陽の恵みを届けたい



Profile

あかね農園
代表 上田 真理子さん

1981年生まれ。安土町内野在住。
2020年3月、県立農業大学校就農科卒業。
卒業と同時に就農し、今年初めてのシーズンを迎える。3.75アールのビニールハウス1棟でパプリカを、20アールの畑で安土信長葱を栽培する。

URL <https://akane-agri.com/>
@akaneagri

「あんたのこのは分厚くて甘くておいしいわあ」といわれることが本当にうれしい」
直売所でお客さんから声をかけてもらったことを思い出して笑顔で話すのは、あかね農園の代表・上田真理子さん。父親から受け継いだ安土信長葱の畑と隣接するビニールハウスでパプリカを栽培しています。

ハキハキと朗らかな話し方とは反対に「対人関係が苦手」という上田さんには、自閉症スペクトラムの障がいがあり、これが就農するきっかけにもなっています。

「これまでも、いくつかの企業で働いてきましたが、障がい者採用の枠を探すのが難しく、安心して働くことができませんでした。たまたま、転職活動中に地元の集落営農で人手が足りないという話を聞き、父から頼まれたネギの収穫の手伝いをしながら、農業なら自分のペースで仕事ができるかなと思い、就農を目指しました」

ネギのほかにもう一つ栽培品目を探していた上田さん。ある日、スーパーの野菜売り場を眺めている時に、色鮮やかなパプリカが目が留まりました。

「パプリカの多くは韓国やオランダ、ニュージーランドなどの外国産が並んでいることに気づきました。これを国産で安く売ることができれば」と考え、パプリカを栽培することに決めました。

県立農業大学校で1年間、農業について学んだ上田さんは、卒業と同時に就農。学校でパプリカの栽培を学び、自信をもって臨んだ

農業の現実とは違ったといいます。
「学校で栽培を学んでいた時とはまったく異なる害虫がついたり、病気がかかったりすることにびびくりしました」
試行錯誤を繰り返しながら、日々の農作業に励む上田さん。ネギは土で太陽光を遮り、白い部分を長くするために行われる「土寄せ」と呼ばれる作業や、肥料を複数回に細かく分けて与えるなど、手間を惜みず栽培されています。一方、パプリカは20分ごとにビニールハウス内の温度を計測し、クラウド上で管理したり、スマートフォンと連動する灌水タイマーで水量や時間をコントロールしたりと作業の効率化を図ります。

初めてのパプリカの収穫時期を終え、「自分と同じように、障がいのある人に収穫などの作業を手伝っていただき、社会生活への足掛かりになればと思っています。また、インターネットでも販売し、多くの人に味を知ってもらいたいです」と早くも来年のシーズンを見据えています。

新たに農業を始めた人には「この作物を育てたい」という強い気持ちを持ち、アンテナを張っていれば、自然と戦略が描けるし、情報も集まると思います。本当に自分が農業をしたいか問いかけて」と上田さん。

あかね農園の名前の由来には「太陽の光を浴びて輝く」という意味もあります。
「一人でも多くの人に、太陽の恵みをお届けしたいです」と笑顔を見せました。

バンドマンから農家に転身 人と人がゆるやかにつながる いちご農園を目指して



Profile
ボン ガーデン
いちご園 Bon Garden

代表 山中 遼さん

1989年生まれ。中村町在住。
バンド活動を経て、2017年3月、県立農業大学
校就農科卒業。2018年1月、大中町にいちご狩
りが楽しめる観光農園「いちご園 Bon Garden」
をオープン。

URL <http://bon-garden.com/>
@bongarden15
@bongarden15



戦後に干拓され、広大な農業地帯となった
大中の湖干拓地。この地で就農を決めたのは、
いちご園「Bon Garden」代表の山中遼さん。
就農して4年目。日に焼けた肌、がっし
りとした体を動かし農作業をする山中さんは、
実は元バンドマンという経歴の持ち主です。

高校時代に音楽に目覚め、友人3人で結成
したロックバンド「スコットランドガール」
ではドラムを担当。県内を中心に全国各地で
活動し、2014年には大型野外音楽フェス
ティバル「京都大作戦」にも出演されました。
ところが、2016年1月にバンドが活動を
無期限で休止することに。この先の生きる道
を考えていた時に、定年退職して農業を始め
た父親から就農をすすめられたこと、また、
米や野菜を栽培していた祖父の農地が利用で
きることもあり、農業の道へ。

「本当によいタイミングだったと思います」
と山中さんは就農を決意した当時のことを振
り返ります。

同年4月に県立農業大学校に入学。「人と
話すことが好き」という山中さんが、果物の
中で一番好きないちごを選び、一年間、栽培
方法を学びました。

「ビニールハウス4棟から始めたいちご園で
は、「草姫」と「紅ほっぺ」の品種を栽培。
今年から「よつぼし」が加わりました。栽培は、
病気の発生を抑制するために、紫外線を発生
させる照明でいちごを照らしたり、苗の葉に
つくタニを食べる天敵を入れて、農薬を減ら
しています。また、「少量土壌培地耕」と呼

ばれる滋賀県独自の栽培システムにより、少
ない土と液肥で低コストに栽培するなど工夫
を凝らします。

「いちごが育っていく過程が楽しみだし、
実がなって初めて食べる時のおいしさに毎年
感動しています」

いちごが真っ赤に色づく1月〜5月のシー
ズン中には、多くの観光客がいちご狩りに訪
れます。「ゆっくり座って楽しんでほしい」
との思いから、1つのハウスに4つのテー
ブルしか置かず、一度に入れる人数を制限。い
ちごの栽培棚の間隔に少しゆとりをもたせて
通路を確保し、車いすやベビーカーが通りや
すいように配慮されています。

「ライブで曲を演奏すると、お客さんから
の反応がすぐに返ってきます。いちご狩りも
一緒に、自分が心を込めてつくったいちごを
その場で食べてもらえて、すぐに感想をいた
だけることに、とてもやりがいを感じしていま
す」とバンド活動といちご狩りには共通する
魅力があると山中さんはいいます。

「バンド活動で知り合った人たちと一緒に
仕事することがあり、過去の経験が農業に
生きていることがたくさんあります。どんな
経験でも必ず農業に生きてくると思います」
と話します。

今後観光農園を軸にいちごに関わりたい
という山中さん。「気軽に立ち寄りてもらえ
て、ゆっくりできる場を作りたい」と将来の
農園の姿を想像していました。

Aコース あかね農園の安土信長入り「きてか〜な」旬の野菜セット



10種類程度の野菜を1箱にまとめ、
12月中旬にお届けします。
※写真の内容とは異なります。

Bコース Bon Garden 満喫チケット



対象期間内に Bon Garden にお持
ちいただくと、商品（ジェラート
4個といちご1パック）またはい
ちご狩り入場券（大人1名分）の
いずれかに引き換えいただけるチ
ケットをお届けします。

読者プレゼント

お二人の育てた農産物が堪能できる
2コースをご用意しました。
たくさんのご応募お待ちしております。

応募締切 **11月30日**(月) 必着
応募方法 ハガキに住所・氏名・年齢・電話番号・特集記事
に関するご意見ご感想・希望コース（AまたはB）を明記し、
ご応募ください（1人につき1通のみ有効）。
宛先 〒523-8501 住所記載不要 農業振興課内
「広報11月号プレゼント」係
※当選発表は、賞品の発送をもってかえさせていただきます。
※賞品発送のために、個人情報提供事業者「きてか〜
な」に提供しますので、ご了承ください。

1. 取材に訪れた9月下旬。前日に
苗を植えたばかりのビニールハウ
スでは、青々としたいちごの葉が
繁る。4つのビニールハウスを合
わせて20アールほどの広さに約
1万株が植わる。 2. いちご狩り
には、家族連れやカップルが多く
訪れるそう。 3. 農園ではパック
詰めしたものを販売。他にも冷凍
いちごやジェラート、手作りジャ
ムを販売する。 4. いちごがきれ
いに大きく育つために必要なが、
ミツバチによる受粉作業。ハウス
の中で花から花へ蜜を吸うために
飛び回る。 5と6. 1つのハウス
に対し、5列に並ぶいちごの栽培
棚。通路が広く、車いすやベビ
ーカーを利用しやすい。居心地の
良さを大切に、テーブルはゆった
りとした配置としている。 7. 扱
う品種は3種類。「草姫」は甘み
が強く、実が柔らかい。子ども
や高齢者に食べやすくなってい
る。「紅ほっぺ」は実がしっかり
していて、甘みの中にも酸味が
あり食べ応えがある。「よつぼ
し」は育苗に手がかからず、シ
ーズンを通して味が安定してい
る。 8と9. バンドではドラム
を担当。疾走感のある楽曲と迫
力のライブパフォーマンスで
会場を盛り上げた。

特集ページのお問い合わせは
近江八幡水郷の食材と食プロジェクト会議事務局（農業振興課内）
TEL (36)5514